

我が国の安全と産業技術に関する調査研究について

平成17年3月4日

経済産業省

1. 調査研究の背景

我が国を取り巻く国際情勢の複雑・多元化

(日米関係の転換点、イラク情勢の混迷、朝鮮半島問題、中台海峡問題、国際テロの拡大など)



国際的な安全保障の議論の深まり

国内テロの懸念、地震・台風などの大規模自然災害や産業事故などの人為的災害の発生

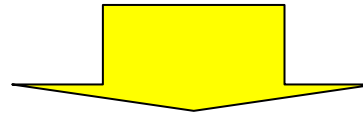


国内における「安全」・「安心」を確保する政策への関心の高まり

「グローバル化」、「ボーダレスエコノミー」等の進展に伴う企業等の経営安定化・利益最大化の追求の優先



産業界・学界における「我が国経済社会の安全という国益」意識の希薄化



我が国の強みである技術開発力を活かした重層的な「対外的な相互依存関係」の構築

安全保障関連技術を核とした他国からの信頼や文化的魅力といった「Soft Power」の強化

産業界・学界・社会が違和感なく共有できる「国益論」の模索

2. 調査研究の目的

経済産業省の関連政策

企業価値防衛・技術流出防止
知的財産権保護
貿易・対日投資の促進・管理
技術開発
経済協力・技術協力
など



複数の政策分野に共通する「我が国経済・社会の安全という国益」に沿った政策的視点の整理

- ・「武器輸出三原則」、「民生用禁輸製品・技術」の運用についての考え方
- ・「技術流出問題」における「国際競争における日本のレントの確保」以外の政策的視点
- ・「第3期科学技術基本計画」における「安全・安心」議論への貢献
- ・「企業・大学のCSR議論」への理論的寄与
- ・海外の安全保障関連技術の戦略的な探索・導入に向けての検討

我が国の優位性や市場性・成長性に専ら着目したいいわゆる「重点分野アプローチ」



対外的な管理・活用の観点から重要な安全保障関連技術の絞り込みやデュアルユース技術の開発・活用(スピノン)に向けての戦略づくり

- ：産業分野ごとの所管課、研究機関、関係省庁、企業などの間の協働

3. 調査研究の概要

海外調査

- ・米・英・仏・中・韓で実施
 - ・各国の輸出管理制度・技術開発制度の背景・哲学、運用指針及び制度の現状調査
 - ・各国の各政策に関連する具体的事例を収集
- など

国内調査

- ・国内の企業、研究機関及び大学など約40カ所で実施
 - ・各調査先が有する技術について、DUAL USEや国際貢献等の観点から技術の競争力や管理の現状などを把握、整理
 - ・各調査先における具体的事例を収集
- など

安全保障関連技術の開発・管理・活用に関する共通の政策的視点の提示

上述の政策的視点に即した技術関連情報の蓄積に向けた方策の提示

4. 国内外における調査事項

0. 技術戦略

- 0 - 1. 各国における安全保障関連技術(国内外の多様なリスクへの対処に有効な産業技術)に関する各政策を立案・運営する際に、根底にある国家の「意思」や「哲学」について
- 0 - 2. 国内にある安全保障関連技術の把握・管理について
- 0 - 3. 各国のDUAL USEの戦略について

1. 開発戦略について

- 1 - 1. 各国の重点分野・優先順位の考え方
- 1 - 2. 各国の技術開発支援予算の配分方法
- 1 - 3. 各国の研究者・技術者の管理と活用、他国の研究機関、研究者、技術者などとの連携方法
- 1 - 4. 研究者・技術者の育成方法
- 1 - 5. 産業競争力や研究開発力を高めるための国際連携

2. 技術の探索・導入

- 2 - 1. 自国のテクノロジーギャップをどのような方法・仕組みで把握しているか
- 2 - 2. 注目している国と技術
- 2 - 3. 各国の情報を収集する方法・仕組み等
- 2 - 4. 各国の技術等を戦略的に導入する方法・仕組み等

3. 輸出管理政策

- 3 - 1. 各国の輸出管理の基本コンセプト
- 3 - 2. 輸出品の区分け
- 3 - 3. Intangible技術、intangibleな伝達手段に関する取り扱い

4. 対外的な活用

対外的な活用(供与、共同開発、移転・流出の制限や国際貢献など)のための基準や実効性の確保について

5. 安全保障関連技術に関する情報の蓄積

(1) 技術情報の収集についての視点

「国・地域」と当該国・地域にとって / 我が国にとって「重要なリスク (= 必要な安全)」

- ・リスクの例: 防衛、防災(自然災害、産業災害、…)
防犯(テロ、出入国管理、沿岸・港湾警備、マネーロンダリング…)

「リスク/安全」と「関連産業技術」

- ・関連産業技術について整理すべきこと
 - : 技術の内容 (要素技術、システム技術、オペレーション・メンテナンス、関連の人材・情報) と、それらに関する我が国の相対的状況

「国・地域」と「対外的な産業技術戦略」(、 を踏まえたもの)

- ・戦略を考える際に整理すべきこと
 - : 各技術分野の中で着目すべきフェーズやモジュール

(2) 情報の精査に当たっての留意点

分野: リスク要因となるもの / リスクの低減・被害制御に役立つもの /
('日本ブランド'などのソフトパワーとなるもの)

重要性: ・日本が技術的な優位性・集積を有し、これを維持・強化すべきもの /
・日本に優位性等が無くとも、自前の開発力・調達可能性が必要なもの /
・別のアプローチ / 対応がうまくいかない場合の代替策となるもの /
・ローテクながら大きな有用性があり、自覚的維持が必要なもの

活用: 積極的な供与 / 共同開発・活用への参画 / 移転・流出の制限 /
海外における探索・導入

なお、「活用」の前提となる「管理可能性」を考える際には、「研究者、技術者の意識次第」という要素にも留意。